

9

韓国ジャーナルに載せられた
補完代替医学関連研究の動向分析

李 太 亨, 金 南 一

韓国 慶熙大学校韓医科大学医史学教室

最近、補完代替医学（CAM, Complementary and Alternative Medicine）に対する関心が全世界的に高まっている。しかし、もともと「補完代替医学」という用語は、アメリカやイギリスのように正統医学を主として医学が形成されてきた国々によって定義された言葉である。したがって、そのような正統医学が導入される以前、すでに自己の固有医学が形成され、現在まで保存されている国の場合には、「補完代替医学」という概念を欧米と同様に使うことは難しい側面があると考えられる。特に韓国では韓医学が西洋医学科と共に制度化され、公認されているので、補完代替医学という概念を新しく整理する作業が必要であると考えられる。

韓国では1990年代の初めから関連研究が少しずつ進んできた。また現在にも補完代替医学に対する関心が高まっていることによって、持続的に研究が続いている。これらの研究は補完代替医学の概念・範疇・現況、そして制度などのいろいろな分野で幅広く進行している。しかし研究者がどのような集団に属しているかによって、補完代替医学を検討する観点が相異なっている傾向もあるし、多くの人が一般的に共有できる学問的基盤を形成することができないのも実情であろう。

韓国国内の西洋医学方面の場合では、一般的に科学万能主義が強くて、韓医学を含めた補完代替医学を排斥してきた。しかし最近、アメリカの医学関係では補完代替医学も活用することを知り、国内に逆輸入しようとする努力をしている。このような立場にいる研究者は、補完代替医学を活用しても、西洋医学と同じく科学的な方法で検証されたことだけを認めなければならないと主張している。他に対比すべき意見も存在している。すなわち、補完代替医学が最近注目を浴びている理由は、西洋医学が持っている限界を乗り越えるためのことなので、その価値を発見するためには本来の理論体系を守らなければならないという主張である。もし補完代替医学が西洋医学的なフレームの中で検証されて、行われるとしたら、それは西洋医学が持っている限界をそのまま踏襲することになるのではないかと指摘する。ただし補完代替医学も検証される必要があるので、効果を証明するためには、それなりの合理的な方法を確立しなければならないと主張している。

このように補完代替医学に対する論議はまだ進行中であり、今後も多くの変化があるだろうと予想される。したがって現在、韓国で補完代替医学が誰によって、どのように研究されているのかを確認することは、今後の韓国における補完代替医学の発展方向を予想するのに、基本的な作業であろう。本論文では多様な補完代替医学に対する研究を比較して分析する作業を通じて、各主張の妥当性を考察する。

本論文では補完代替医学に対する論文を検討した結果、その中で多様な立場が存在していることがわかった。しかしながら、このような差異を固守することは、医療関係の紛争を起こす可能性があり、補完代替医学の活用にも役に立たない。そのため本論文では各意見間の妥当性を考察することから、補完代替医学の研究方向や活用案について検討した。